

令和3年度 第3回白馬高等学校学校運営協議会 議事録（概要）

- 1 日時 令和4年（2022年）2月14日（月）10時00分～12時00分
- 2 形態 ZOOMによるオンライン会議
- 3 参加者 委員10名
長野県教育委員会事務局2名
高校再編推進室主幹指導主事：上原一善氏
同 主任指導主事：佐野浩一郎氏
白馬山麓事務組合白馬高校支援係2名
白馬高等学校職員3名



4 次第

- (1) 開会の言葉（井出敦白馬高校教頭）
- (2) 長野県教育委員会挨拶（上原高校再編推進室主幹指導主事）
- (3) 報告事項

① 学校より（校長の挨拶を含む）現況報告 ～事前配布資料の一部を画面共有して説明

<関校長>

- 重点目標1「安心・安全な学校づくり」については、昨年と比べ転退学者が半減し、「学校評価」における肯定的回答が倍増という成果が出た。
- 重点目標2「探究的で多様な学びの機会の提供」については、昨年実施できなかった「高校生ホテル」と「デュアルシステム実習」を実施できた。県内高校生による探究活動の成果発表の機会である「マイプロジェクト長野 Summit」で、地域協働の音楽フェスを開催した3年生女子の発表が1位の県知事賞を受賞した。学校評価では肯定的回答が30%台から70%台に向上している。
- 重点目標3「寮生・下宿生に対する丁寧な支援、地域交流の促進」については、コロナ禍であっても支援係をはじめスタッフのおかげで、安心・安全な寮生活が送れており、食事の改善もあり保護者アンケート結果も良好だった。コロナによる制約がある中で、いくつかの地域交流が実施できた。支援係とは良好な関係で協働できている。
- 重点目標4「生徒募集に向けた積極的な情報発信」については、本年度から参画した地域みらい留学を通じたオンライン学校説明会を12回実施した。また、白馬小谷大町地区の中学生や先生方への説明だけでなく、地元小中学校のPTAの皆さんに対する説明も行った。
- 高校生ホテルや糸魚川高校との交流学习を通じて、地域課題やキャリアデザインについて前向きな考えを持つ生徒が増えてきた。
- 部活動は、スキー部の全国大会での活躍が目立つが、吹奏楽部やダンス部など少人数でも熱量の高い生徒がいて活躍している。
- 進路状況は、4年制大学に40%が進学、うち2名が公立大に合格した。学ぶ分野は観光、経済、経営、グローバル、情報、看護など多岐にわたる。今後も公営塾での進路対策をお願いしたい。
- 令和元年度から今年度まで取り組んできた「地域との協働による高校教育改革推進事業」の成果測定に使った評価ポートフォリオをみると、この3年間の取り組みで、学習環境、資質能力の発揮、自己認識という3分野において、探究性・協働性・主体性の3観点ともに目立って向上している。一方で、社会性、地域への関心という点では伸びが低く、引き続きの課題と認識している。

質疑・応答

なし。

② 白馬高校支援係より報告～配布資料を説明

<丸山事務局員>

- 保護者・生徒のアンケートでは、「充実した寮生活」や「支援係が親身になって相談にのっている」は肯定的な意見が多いが、施設に関しては、寮にエアコンが完備できていなくて暑いなどの声があった。寮の食事の評価に改善は見られるが、弁当についてはまだ不満の声が40%ある。引き続き改善していきたい。

- 11月に高知県と愛媛県の3校を視察した。中学からそのまま高校に進学していくいわゆる「エスカレーター型」ではなく、連携型の中高一貫校で、協働交流授業や合同体育祭などを実施し、情報交換も良好で、安定して地元中学校からの入学者を得ていた。それらの寮では、高校の先生方が交替で寮当番として宿直しているところもある。
- 来年度の支援事業の予算要求の内訳を資料で示した。エアコン設置工事の予算の計上のほか、各種補助金は、英語検定や基礎スキー検定などの資格検定費用も補助したい。地域みらい留学に参画してオンラインによる募集や、地域に出向いた説明会を引き続き行う。公営塾は講師4名体制にする。

質疑・応答

<岸委員>

- 校長の資料の重点4に関して。志願者数が普通科16人募集のところ19人志願に対して、国際観光科が30人募集のところ18人志願にとどまった要因としてどんなことが考えられるか。

<関校長>

- 県外生の志願者数が減った。全国募集をする高校が300校以上あり、アピールポイントも互いに似通っていて競争が激化している。白馬は全国的にも知名度が高いが、コロナ禍のあおりを受けているとも考えられる。これといった明確な要因を特定することは難しい。

<岸委員>

- 全国募集の学校が増えているのは聞いている。自然の中で学べるというだけでなく、国際観光の中で国際的な経営を学べるといった白馬ならではの長をアピールしたらどうか。
- 公営塾の利用者が少ない理由は何か。コロナの関係か。

<松澤事務局長>

- 推薦や総合型選抜で進学する生徒がほとんどで、塾をうまく活用できなかった点がある。

<岸委員>

- 生徒への奨学金について、どのような基準を満たせばもらえるのか。丁寧な説明はされているのか？

<松澤事務局長>

- 現在予算要求の段階であり、決定されたのち新年度詳細な説明を行う。たとえば、海外語学研修補助では、一定の要件の下で、白馬・小谷中学校出身者には20万円上限、他地区出身者は10万円上限というような差をつけた地元優先策も検討している。

<岸委員>

- 県外に出向いての学校説明は一度もされなかったのか。県外生は個別対応でということか。

<関校長>

- コロナ禍で、直接大都市圏へ出向いて話すことは残念ながらできなかった。オンライン説明会の後、14家族が個別に学校や寮の見学に来てくれた。その中で志願承認まで行ったのは半分の7名だった。

<下川委員>

- 支援係の説明にあったように、視察した学校では教員が寮に出向いている。同じことが白馬でできないか長野県教委としても来年度に向けて検討してもらえよう要望する。
- 白馬中学や小谷中学で説明会を2回したということだが、地元の子が白馬高校へ多く入ってもらえる取組みを是非ともお願いしたい。

(4) 協議

<白戸議長>

- 後半は、今後の学校運営について、深く掘り下げて議論したい。まずは、学校としての考え方をお聞きしたい。

<関校長>

- 白馬高校の教育活動を今後も継続していくにあたっては、地域の理解と協力の獲得が不可欠だ。そのために、この協議会が核となって、地域の声を盛り上げてほしい。学校の取り組みとして、5つのポイントを考えている。
- ①本校のビジョンを明確化して地域へ発信する。 ②県の再編整備計画において、本校の位置づ

けを早期に明確化することを要望する。③本校の教育環境のさらなる充実について論点を整理する。④③の具体的な実施計画を策定し順次実行する。⑤白馬高校の教育を考える懇話会との連携を早期に実施する。

○②についてだが、白馬高校の存続が前提にあつてこそ、安心して地域でも白馬高校の支援に取り組みますと思うので、整備計画の中で本校の位置づけを早くはっきりさせてほしい。その上で、白馬高校の活動がどういう形でこの地域に根付いていけば県外生も地元生も集まるのかを、皆さんとともに練り直したい。

○情報発信の重要性は従来から指摘されているとおりで、効率的、効果的に行うための専門支援員配置について、地域おこし協力隊員を募集する形で両村に協力を求めたい。

○教育内容の充実については、今後、小中高の連携が重要になると考えている。

○学びの柱としては「環境」「観光」「国際」。国際＝英語教育ではあるが、都市部で求められる英語力は、英語を使って自由に説明、理解、対話するためのものだ。本校で求めているのは、それとは少し違って、白馬には定住外国人や観光で訪れる外国人が多いことから、地域を動かし活性化するために英語も使って繋がりをつくる、そのためのコミュニケーション力の養成だと考えている。「スキー部」はアルペン・クロスカントリー・コンパインドの3人の専門の体育教員がいるが、3セクションはぜひ残したい。来年度からコーチングサポートをそれぞれのセクションで試験的に導入する予定である。

○「コンパインドのハイレベル選手養成構想」が信濃毎日新聞で報道された。そこで、白馬高校が受け皿だという話だが、実際には何も決まってははいない。しかし、競技力の向上と生徒募集、学校の活性化の面で、この先を考えると大変いい話だと思っている。

<白戸議長>

○今の校長の話を受けて、地域として高校をどう位置付けるかという点を踏まえながら、皆さんからご意見を伺いたい。

<岸委員>

○白馬でないとできないという点を明確化するとき、地元が魅力に思うものと県外から見た白馬の魅力は全く違うので分けて考えるべき。

○観光科とついているが、あまり観光を前面に出すと興味のない人は来ない。英語が喋れるのが当たり前の時代だから、国際観光を学ぶことでどれだけ人生に役立つか、英語以外に国際教育が学べるということが必要だ。

<古畑小谷中学教頭>

○中学生は自分の夢がまだ明確に語れない。白馬高校の生徒が実際に中学生に対して自分の取り組みの様子などを語ってくれる場が欲しい。生徒の変容のところで社会性が足りないということなので、そういう場を設けることでお互いに得られる関係になればよい。

<武田委員>

○「白馬高校だからできる、白馬高校に行けばできる」ことを大切にしてほしい。魅力的な指導者がいるから行きたいということがポイントとなる。もっとスキーのアピールをしてもよいのではないか。

○自己肯定感が向上しているので、それを強化し周りでサポートしてあげられることが大事。

○地元の人は近すぎて何が魅力か気づかないこともある。高校生の学びの中で地元の人にも地元のこと気づけるような活動があればいいと思う。

<白戸議長>

○割り込んで発言してもらっても大丈夫です。学校の特長を大事にしていかなければならないとともに、地元としては白馬高校の価値をどのように見出しているのかという点も含めてご意見をいただきたい。

<平田委員>

○国際観光科は英語を学ぶため、英語が苦手な子は普通科へという印象が一般的。小中から英語に興味を持って国際観光科でしたいことに繋がればいいと思う。

○スキー部に限らず、一人一人の特性を見極めてトレーニングを行うなど、自分を知るためのコーチングがあつてよいのではないか。

○情報発信に特化した人を地域おこし協力隊で募集するのはよいことだ。

○白馬フォーラムを見たが、1、2年生の早い段階で何をしたいかを見つけれればいいと思う。

<相澤委員>

○昔からスキーは白馬高校というイメージ。今オリンピックを見ている小中高生に同窓会を通じてオリンピックと交流する場を設けて、それを脳裏に焼き付けていけばいいと思う。

<下川委員>

○運営協議会の議論の中身が濃くなってきていると感じている。懇話会も充実させていきたい。新聞の切り抜き資料を見たが、地方紙でも、マスコミを使った情報発信は大事。

<中村委員>

○県教委にもスキーに特化しているということを理解してもらい、再編の位置づけを明確に評価して欲しい。

○入学後に自分の思っていたことと違うと感じている生徒が多いという点にはしっかりとした対応が必要。

○同窓会、懇話会が力をいれている姿を見せて発信して欲しい。情報発信は、地域起こし協力隊員なら特技を生かせる人材として活用できるのではないかと。

<伊藤委員>

○奨学金補助の先にある、英検を持っていると大学受験に役立つことをアピールすべき。

○姉妹都市の訪問の際にこうした資格を持つ生徒を派遣団の一人として連れて行ってはどうか。

○スキー関係者の連携に運営協議会の代表者も参加してはどうか。

○ケーブルテレビで白馬高校のチャンネルを持ち、生徒が情報発信をしてはどうか。

○個人的なことだが、長野県の元気づくり支援金に応募している。その中で講師を招いて歴史などを勉強するのだが、白馬高校からも10人くらい参加して、若い感性で情報発信をして欲しい。

<白戸議長>

○スキーの話がでていますが、就職場所など選手の将来像を見据えて考えていく必要がある。

○教育の結果は10年かかる。到達点と今後の課題の整理が必要。個の成長には一定の成果があるが、地域をどう変えていくのかは今後の課題だ。

○村の外からと内からを高校生がSDGsでつないでくれた。この役割はこれからも重要である。

○地元がこのような地域にしたいので、こういう人材を育てたいということが大事。白馬高校に何を期待しどんな人材を育てたいと考えているのかということ、多くの人を巻き込んで懇話会や協議会が中心になって考えていかなければならない。例えば英語教育でも一般論とは違って白馬にとっての英語教育とはどんなものかを考えてみるとか。

○大学受験でも観光系の倍率が今年は半減しているが、こうしたことは長い目で見る必要がある。

<岸委員>

○リモートで全国募集した際のプレゼン内容は？

<関校長>

○画像の入ったパワーポイントを利用し、特色ある教育活動について生徒が説明を行った。

<岸委員>

○プレゼン力が重要になる。学校や生徒の熱量を伝えるものだが、学校で制作したものか？

<関校長>

○学校が中心となって制作し、生徒のスライドを加えた。

<岸委員>

○運営協議会委員にも見せていただき良かった。

<中村委員>

○小谷中学の先生との交流の場をぜひお願いしたい。

<白戸議長>

○中高で一緒に学ぶというのは大事だと思うのでよろしくお願いしたい。

○本日の議論を踏まえて、学校側は新年度に向けて経営方針の提案を行ってほしい。

(5) その他

<井出教頭>

○その他として委員の改選について校長より発言がある。

<関校長>

○前回の協議会で白馬中学校の校長先生を委員に加えるという要望があったが、県教委と相談したところ、全県統一の規約で委員数が10人と決められていて、増員は難しい。新年度からオブザーバーという形で参加いただく方向で考えている。

○委員の皆さんの任期は今年の4月末までとなっている。これまでのお力添えに感謝申し上げます。

新しい委員の方には改めてご連絡させていただく。

<井出教頭>

○別紙資料にある自己評価の妥当性についての意見と学校への改善提案の提出をお願いします。

○次回の令和4年度の第一回学校運営協議会は5月に行う予定。

(6) 閉会